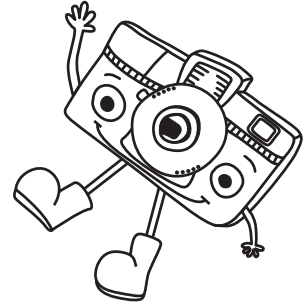


こども特派員の



夏休みレポート

文化センターを取材して

文化センターは光市の博物館でした。館内には、焼き物や絵や彫刻や昔の道具やいろんなものがたくさんありました。昔の道具は何でも木で作ってありました。水車は、自然の力だけで水をくみ上げる仕組みになっていて、とてもきれいに作ってありました。特別に、普段は入れない地下の特別収蔵庫も見せてもらいました。そこで、説明のときも私たちはがきと同じ絵を見せてもらいました。東山魁夷という有名な画家の



室積小学校 5年
清水 瞳さん



特別収蔵庫で東山魁夷の作品を見る

絵でした。最初は普通の絵と見ました。しかし、じっと見てみると絵の奥が見えるような気がしました。私もこんな絵が描きたいと思いました。館内の照明は、展示物を傷めないように紫外線の少ないものを使っているとのことでした。収蔵庫では、カビが生えないように温度や湿度を管理していて、展示物や収蔵物を大切にしていることが良くわかりました。最後に、案内をしていただいた丸岡さんに、「どういう人に来て欲しいですか」と聞いたら、「あなたたちのような人に来て欲しいです。そして、帰ってから今日見たものについて、お友達たちに話をして

くれるといいです。今の日本は何でもすぐ捨ててしまうので、みんなが物を大切にしてくれるようになればいいですね」といわれました。これからはずっとみんなの、光市の宝物を大切に守って欲しいと思いました。

水道局見学レポート



附属光小学校 6年
水品 俊紀くん

光市の水道水はおいしいです。僕たちは、その、おいしい水をつくっている林浄水場と、清山配水池を見学しました。特別に見せてもらった水道水ができるまでの過程は、初めて知ったので驚きました。

それは、川から直接水を取るのではなく、わざわざ、川の地下に穴の地下を流れる水（を汲み上げているということ）です。ダムの水や川の中を流れる水よりも濁りが無く、薬品も少なくすみ、安くきれいにできるそうです。浄水場の管理棟の外の水槽には島田川にいる魚が飼われています。水槽の水は汲み上げた



沈殿池を見学する

原水を使っていて、魚に異常があれば水質の異常がわかるようになってくるそうです。浄水場では「出来たての水」といって、ペットボトルに入れた水道水を飲ませてもらいました。

見学させてもらった後に飲んだ水道水は、より一層おいしく感じました。冷えていれば、売られている、ミネラルウォーターと変わります。浄水場の人たちは24時間、光の水の安全のために目を光らせています。みんなの安全のためにがんばっている人がいるから、毎日安全でおいしい水が飲めるということが良く分かりました。